

研究報告：秋田大学保健学専攻紀要24(2)：45 - 58, 2016

一般病院と訪問看護ステーションの看護用具の使用状況 ～基礎看護技術教育の教材で用いる看護用具を焦点として～

長谷部 真木子* 佐々木 真紀子*

要 旨

医療環境や看護技術を提供する場の多様化に伴い看護用具も変化している。臨床に即し、かつ看護技術の原理原則を教授するのに適した看護用具を検討する基礎資料を得ることを目的に調査した。方法は質問紙調査法で全国200床以上の一般病院（以下、病院）と訪問看護ステーション（以下、訪問）の看護用具選択に携わる看護職を対象とした。分析対象は病院198名（有効回答率31.8%）、訪問105名（有効回答率29.3%）であった。先行研究と教科書から抽出した96項目の看護用具の使用状況を分析した結果、ガラス製品やゴム製品および水銀を使用した看護用具の使用割合が低かった。病院と訪問で使用割合に違いが見られ、教材の選択には看護の場も考慮する必要があると考察された。

はじめに

看護基礎教育のなかで看護技術の能力を育成することは非常に重要である。平成19年厚生労働省の「看護基礎教育の充実に関する検討会」報告書¹⁾では、看護基礎教育で習得する看護技術と臨床現場で求められるものとのギャップがあり、新卒看護師の実践能力の低下が問題であるとした。そのため、実践能力の向上を意図し平成21年カリキュラム改正が行われている。統合科目が設置され、基礎看護学の位置づけは全ての看護実践の基盤となる事が強調された。また卒業時の看護師に求められる実践能力と到達目標も明示された。一方新卒看護師も臨床現場とのギャップに悩んでいることが報告されている²⁾³⁾⁴⁾。それら報告の中では、学んだことと異なる看護技術への戸惑いや動揺、未経験である看護技術への不安が多く述べられている。平成22年から新卒看護師の研修が努力義務化され、基礎教育と臨床の連携がより重要となっている。その様な背景のもと基礎看護学領域は、どの様な看護技術項目を、どの様な教材を用いて、学生に習得させるのが適切な

のか検討が必要であると考えらる。

看護技術はその看護技術の原理・原則をふまえたうえで、対象や環境に合わせ応用し提供するものである。各看護技術を教育する際には講義、演習、実習と様々な授業方法が用いられる。その中でも演習は看護実践のための技術習得という授業目標のもとに実施される。目標達成のために授業の展開方法や教材を精選する必要がある。看護教育の教材とは看護を教授するための媒介となる素材で教育内容により選択すべきものであり、看護技術の教育では看護用具も含まれる⁵⁾。看護技術演習で用いる看護用具は看護技術の原理・原則が理解でき、応用し易く実践現場でも活用し易い物が望まれる。臨地実習では、看護用具が学内と違うと、物品が違うことのみにとらわれ、看護技術の実践において原理・原則があるそかになってしまうという懸念もある。学内演習は現実に近い模擬状況で実施されることで、実習に臨む際に不安が軽減される⁶⁾と述べられているが、基礎看護技術を教育する際に臨床現場で使用されている物品と学内で使用されている看護用具が乖離している⁵⁾⁷⁾という報告もある。尾崎らの調査⁸⁾で

* 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻

Key Words: 基礎看護技術教育
教材
看護用具
一般病院
訪問看護ステーション

は、臨床で使用されている看護用具は変わってきており、教材に使用する看護用具は、医療機器の進歩や臨床の動向を見据えながら用いる必要性を示唆していた。最近では看護技術を提供する場も、一般病院（以下、病院とする）のみならず在宅や施設と多岐にわたり、それは使用する看護用具も多岐にわたっているということを示している。病院を調査した尾崎らの調査⁸⁾から10年以上経過して使用する看護用具は更に変化していると予想される。また新人の訪問看護ステーション（以下、訪問とする）等への就職は少ないことが予測されるが、基礎教育では将来において地域や在宅の場で看護することも見据えて教育を行っている。しかし訪問の基礎看護技術で使用する看護用具について使用状況の実態を調査したものは見当らなかった。そこで、全ての看護実践の基盤となる基礎看護技術を教育する際に、教材として使用する看護用具を検討するためには、病院と訪問の看護用具の使用状況を把握することは必要かつ重要であると考えられる。

研究の目的

基礎看護技術教育の教材で用いる病院と訪問における看護用具の使用状況を把握し、看護技術の原理原則を教授するのに適した看護用具を検討する基礎資料を得る。

研究方法

1. 用語の操作的定義

看護用具：看護技術を提供する際に使用する物品

2. 研究対象

病院622施設、訪問358施設で、看護用具選択に携わる看護職を各施設から1名とした。対象施設の選択方法は、病院については厚生労働省に登録されている（2015年3月時点）全国200床以上の病院1836施設から、信頼度95%、精度±5%、母比率0.5、回収率50%とし精神単科病院を除く622施設を地域比例配分で無作為に抽出した。訪問については全国訪問看護事業協会に登録されている（2015年7月時点）4711施設から信頼度95%、精度±5%、母比率0.5とし358施設を地域比例配分で無作為に抽出した。

3. データ収集期間

2015年7月6日～8月31日

4. 方法

1) 無記名自記式の質問紙調査（郵送）

2) 調査内容

(1) 施設の特性

病院は設置主体、病院機構、病床の種類、実習施設の有無、訪問は設置主体、利用者数、職員数、実習施設の有無とした。

(2) 対象者の属性

年齢、職種、病院は臨床経験年数、訪問は訪問看護経験年数、最終専門教育課程、職位、看護基礎教育に携わった経験の有無と内容とした。

(3) 看護用具の使用状況について

調査する看護技術項目は2013年に大津⁹⁾らが基礎看護技術演習の実施状況の全国調査から、50%以上の実施率の看護技術項目27項目とした。それらの看護技術で使用されている看護用具は4種類の教科書¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾¹³⁾と山口らの調査⁵⁾を参考に96項目抽出した。訪問では使用しないと予想される清拭車・洗髪車・ベッドメイキング用品を除き88項目とした。使用状況は「いつも使用」「患者の状態により使用」「使用しない」で回答してもらった。訪問は「実施しない看護技術」には斜線を引いてもらった。

(4) 看護用具と基礎教育とのギャップについて

看護用具と基礎教育とのギャップを感じるか否かを尋ねた。感じる場合はその内容を記述してもらった。またギャップを感じている場合に、新人教育で問題を感じているか否かを尋ねた。感じている場合はその内容を記述してもらった。この質問は、訪問へ新人が就職することは少ないことが予測されたため病院のみに尋ねた。

3) データ収集方法

病院は看護部長へ、訪問は管理者へ、郵送で研究の目的、趣旨を説明し、研究への協力と参加を依頼した。承諾が得られた場合は同封の調査用紙を対象者へ配布してもらうことを看護部長または管理者に一任した。対象者は自由意思で回答し調査用紙を返信用封筒に入れ直接研究者に郵送した。

4) データの分析方法

基本統計量を算出した。その後、看護用具の使用状況を「いつも使用」「患者の状態により使用」

を【使用】とし、「使用しない」の2つに再分類した。病院と訪問で看護用具の【使用】状況の相違について²検定を用いて検討した。看護用具と基礎教育とのギャップを感じる者は属性との関連性について²検定を用いて検討した。また自由記述内容は意味内容の類似性で分類し検討した。データの分析にはSPBS (V9.67) を使用し $p < 0.05$ を有意とした。

5) 倫理的配慮

対象者へは書面にて研究目的、趣旨を説明し、自由参加であること、無記名であること、研究目的以外に使用しないこと、結果は公表することを

確約した。本研究は A 大学大学院医学系研究科・保健学倫理審査委員会の審査を受け承認を得て実施した (平成27年5月28日医総第577号)。

結 果

病院は198人 (回収率31.8%)、訪問は107人 (回収率29.8%) から回答が得られ、病院は198人 (有効回答率100%)、訪問は欠損値が多かった2人を除き105人 (有効回答率98.1%) を分析対象とした。

1) 対象者の概要 (表1・表2)

病院の設置主体で最も多かったのは医療法人で

表1 病院対象者の概要

		(n = 198)	
		n (%)	mean(SD)
設置主体	国立	30 (15.2)	
	公立	56 (28.3)	
	医療法人	66 (33.3)	
	その他	46 (23.2)	
	社会福祉法人	7 (3.5)	
	厚生連	10 (5.1)	
	学校法人	7 (3.5)	
	一般財団	5 (2.5)	
	その他	9 (4.5)	
	未記入	8 (4.0)	
	病院機構	大学附属病院	17 (8.6)
専門病院		18 (9.1)	
地域医療支援病院		46 (23.2)	
一般病院		114 (57.6)	
未記入		3 (1.5)	
病床の種類	一般病床のみ	118 (59.6)	
	一般病床と療養病床	21 (10.6)	
	一般病床とその他	33 (16.7)	
	療養病床のみ	1 (0.5)	
	療養病床とその他	2 (1.0)	
	一般病床と療養病床とその他	20 (10.1)	
	その他のみ	2 (1.0)	
	未記入	1 (0.5)	
実習受け入れ施設の有無	有り	185 (93.4)	
	無し	13 (6.6)	
年齢			46.8 (7.9)
職種	看護師	191 (96.5)	
	助産師	6 (3.0)	
	保健師	1 (0.5)	
臨床経験年数			23.8 (7.8)
最終専門教育課程	専門学校	147 (74.2)	
	短大	21 (10.6)	
	大学	11 (5.6)	
	大学院	17 (8.6)	
	その他	2 (1.0)	
職位	部長	10 (5.1)	
	副部長	32 (16.2)	
	師長	96 (48.5)	
	主任	40 (20.2)	
	スタッフ	15 (7.6)	
	未回答	5 (2.5)	
看護基礎教育に携わった経験 教育経験内容 (複数回答)	有り	194 (98.0)	
	教員	25 (12.9)	
	臨床指導者	140 (72.2)	
	スタッフ	61 (31.4)	
	その他	14 (7.2)	
	無し	4 (2.0)	

表2 訪問対象者の概要

		n = 105	
		n (%)	mean(SD)
設置主体	社会福祉法人	4 (3.8)	
	医療法人	47 (44.8)	
	看護協会	1 (1.0)	
	営利法人	26 (24.8)	
	その他	27 (25.7)	
	医師会	5 (4.8)	
	生協	3 (2.9)	
	公立	4 (3.8)	
	一般財団	6 (5.7)	
	その他	8 (7.6)	
	未記入	1 (1.0)	
ステーション利用者数			82.0 (65.4)
職員数			6.8 (3.7)
実習受け入れ施設の有無	有り	59 (56.2)	
	無し	45 (42.9)	
	未回答	1 (1.0)	
年齢			47.9 (8.0)
職種	看護師	102 (97.1)	
	助産師	0 (0.0)	
	保健師	2 (1.9)	
	未回答	1 (1.0)	
訪問看護経験年数			10.4 (8.1)
最終専門教育課程	専門学校	94 (89.5)	
	短大	8 (7.6)	
	大学	1 (1.0)	
	大学院	1 (1.0)	
	未回答	1 (1.0)	
職位	管理者	64 (60.9)	
	副管理者	10 (9.5)	
	スタッフ	31 (29.5)	
看護基礎教育に携わった経験	有り	88 (83.8)	
教育経験内容 (複数回答)	教員	10 (11.4)	
	臨床指導	47 (53.4)	
	スタッフ	35 (39.8)	
	その他	3 (3.4)	
	無し	17 (16.1)	

33.3%、病院機構は一般病院で勤務している看護師が57.6%で最も多かった。病床の種類は一般病床のみ59.6%、実習の受け入れ施設であるが93.4%であった。対象者の平均年齢は46.8歳(±7.9)、職種は看護師96.5%、平均臨床経験年数は23.8年(±7.8)、最終専門教育課程は専門学校が74.2%、職位では師長48.5%、看護基礎教育に携わった経験有は98.0%であった。

訪問の設置主体は医療法人44.8%、平均ステーション利用者数82.0人(±65.4)、平均職員数6.8人(±3.7)、実習の受け入れ施設であるが56.2%であった。対象者の平均年齢は47.9歳(±8.0)、職種は看護師が97.1%、平均訪問看護経験年数は10.4年(±8.1)、最終専門教育課程は専門学校が89.5%、職位は管理者が60.9%、看護基礎教育に携わった経験有は83.8%であった。

2) 看護用具の使用状況

(1) 病院の看護用具の使用状況については表3に示した。以下、看護技術項目ごとに使用状況の

概要を述べる。

清潔の援助(清拭、洗髪、足浴、口腔ケア、陰部洗浄)

「いつも使用」の看護用具は、清拭でフェイスタオルが69.7%、ウオッシュタオルが50.5%、足浴で手袋が84.3%、口腔ケアでスポンジブラシが50.5%、陰部洗浄で陰部洗浄ボトルが88.9%であった。「患者の状態により使用」の看護用具は、陰部洗浄時の差し込み便器が65.2%であった。「使用しない」の看護用具は、ケリーパッド(プラスチック製)が69.2%、陰部洗浄でピッチャーが74.2%であった。

寝衣交換・病床整備(寝衣交換、ベッドメイキング、ベッド掃除)

「いつも使用」の看護用具は、ベッドメイキングでフラットシートが79.3%、粘着ローラー45.5%であった。「患者の状態により使

表3 病院の看護用具使用状況

		n = 198人 (%)			
看護技術	看護用具	いつも使用	患者の状態により使用	使用しない	
清潔の援助	清拭	清拭車	102 (51.5)	16 (8.0)	80 (40.4)
		洗面器	42 (21.2)	88 (44.4)	68 (34.3)
		ウオッシュタオル	100 (50.5)	35 (17.7)	63 (31.8)
		ペーパータオル	75 (37.9)	37 (18.7)	84 (42.4)
		フェイスタオル	138 (69.7)	39 (19.7)	21 (10.6)
		バスタオル	78 (39.4)	83 (41.9)	37 (18.7)
		石けん	42 (21.2)	88 (44.4)	67 (33.8)
		清拭剤	41 (20.7)	86 (43.3)	71 (35.8)
		洗髪	洗髪車	22 (11.1)	99 (50.0)
	ケリーパッド (ゴム)		7 (3.5)	60 (30.3)	131 (66.2)
	ケリーパッド (プラ)		15 (7.6)	46 (23.3)	137 (69.2)
	洗髪シート		35 (17.7)	58 (29.3)	105 (53.0)
	ドライシャンプー剤		10 (5.1)	148 (74.8)	40 (20.2)
	耳栓		11 (5.6)	79 (39.9)	108 (54.6)
	足浴	たらい	114 (57.6)	59 (29.8)	25 (12.6)
		ビッチャー	102 (51.5)	51 (25.8)	45 (22.7)
		手袋	167 (84.3)	29 (14.7)	2 (1.0)
	口腔ケア	スポンジブラシ	100 (50.5)	93 (47.0)	5 (2.5)
		吸引付きチューブ	26 (13.1)	89 (45.0)	83 (41.9)
舌圧子		14 (7.0)	112 (56.6)	72 (36.4)	
ガーグルベースン		121 (61.1)	1 (0.5)	76 (38.4)	
吸飲み		63 (31.8)	127 (64.1)	8 (4.0)	
陰部洗浄	陰部洗浄ボトル	176 (88.9)	19 (9.6)	3 (1.5)	
	ビッチャー	14 (7.1)	37 (18.7)	147 (74.2)	
	差し込み便器	15 (7.6)	129 (65.2)	54 (27.3)	
寝衣交換・病床整備	寝衣交換	和式寝衣	35 (17.7)	108 (54.6)	55 (27.8)
		ガウン式	40 (20.2)	106 (53.5)	52 (26.3)
		扁平	66 (33.3)	98 (49.5)	34 (17.2)
		パジャマ	34 (17.2)	103 (52.0)	61 (30.8)
	ベッドメイキング	フラットシート	157 (79.3)	17 (8.6)	24 (12.1)
		上シート	77 (38.9)	28 (14.1)	92 (46.5)
		防水シート	53 (26.8)	124 (62.6)	21 (10.6)
		横シート	33 (16.7)	76 (38.4)	88 (44.4)
		毛布	140 (70.7)	28 (14.1)	30 (15.2)
	ベッド掃除	スプレッド	43 (21.7)	30 (15.1)	124 (62.6)
		ベッドブラシ	30 (15.2)	38 (19.2)	130 (65.7)
		粘着ローラー	90 (45.5)	77 (38.9)	31 (15.7)
移乗・体位変換	移乗	スライディングボード	77 (38.9)	100 (50.5)	21 (10.6)
		横シート	57 (28.8)	111 (56.1)	30 (15.2)
	体位変換	ピースまくら	101 (51.0)	87 (43.9)	10 (5.1)
		クッション	95 (48.0)	95 (48.0)	8 (4.0)
羽枕	18 (9.1)	46 (23.2)	134 (67.7)		
排泄の援助	排尿の援助	プラスチック製尿器	130 (65.7)	65 (32.8)	3 (1.5)
		ガラス製尿器	7 (3.5)	15 (7.6)	176 (88.9)
		安楽尿器	15 (7.6)	101 (51.0)	81 (40.9)
	排便の援助	差し込み便器 (ゴム)	11 (5.6)	36 (18.2)	151 (76.3)
		差し込み便器 (洋式)	29 (14.7)	53 (26.8)	116 (58.6)
		差し込み便器 (和式)	34 (17.2)	67 (33.8)	97 (49.0)
		差し込み便器 (和洋)	28 (14.1)	45 (22.7)	125 (63.1)
	おむつ交換	布おむつ	6 (3.0)	5 (2.5)	187 (94.4)
		紙おむつ (平)	46 (23.2)	118 (59.6)	34 (17.2)
		紙おむつ (テープ)	108 (54.6)	90 (45.5)	0 (0.0)
	一時的導尿	紙おむつ (パンツ)	88 (44.4)	110 (55.6)	0 (0.0)
		市販導尿セット	47 (23.7)	34 (17.2)	117 (59.1)
		下肢保温袋	1 (0.5)	7 (3.5)	190 (96.0)
浣腸	浣腸 (ガラス)	3 (1.5)	4 (2.0)	191 (96.5)	
	イリゲーター	72 (36.4)	56 (28.3)	70 (35.4)	
経管栄養	栄養注入バック	105 (53.0)	58 (29.3)	35 (17.7)	
	バルスオキシメーター	163 (82.3)	27 (13.6)	8 (4.0)	
バイタルサインの測定	呼吸状態観察	水銀血圧計	19 (9.6)	89 (45.0)	90 (45.5)
		アナロイド式	54 (27.3)	40 (20.0)	103 (52.0)
		自動血圧計	153 (77.3)	38 (19.2)	7 (3.5)
	体温測定	水銀体温計	0 (0.0)	5 (2.5)	193 (97.5)
		電子体温計	195 (98.5)	3 (1.5)	0 (0.0)
鼓膜式体温計	6 (3.0)	70 (35.4)	122 (61.6)		
電法	冷電法	氷枕 (ゴム)	80 (40.4)	58 (29.3)	60 (30.3)
		氷嚢	17 (8.6)	48 (24.2)	133 (67.2)
		氷類	6 (3.0)	40 (20.2)	152 (76.8)
		CMC 製品	98 (49.5)	39 (19.7)	50 (25.3)
	温電法	プラスチック製湯たんぽ	21 (10.6)	21 (10.6)	156 (78.8)
		ゴム製湯たんぽ	43 (21.7)	45 (22.7)	110 (55.6)
		金属製湯たんぽ	3 (1.5)	3 (1.5)	192 (96.8)
		CMC 製品	40 (20.2)	41 (20.7)	108 (54.6)
診療の補助	無菌操作	鉗子立て	17 (8.6)	18 (9.1)	163 (82.3)
		個包装罐子	179 (90.4)	12 (6.1)	7 (3.5)
		万能壺	21 (10.6)	22 (11.1)	154 (77.8)
		滅菌包布	43 (21.7)	33 (16.7)	122 (61.6)
		カスト	10 (5.1)	12 (6.1)	175 (88.4)
	注射	注射器 (ガラス)	1 (0.5)	4 (2.0)	192 (97.0)
		滅菌トレイ	28 (14.1)	42 (21.2)	126 (63.6)
		安全装置付きの翼状針	150 (75.8)	26 (13.1)	21 (10.6)
	採血	注射器 (採血)	113 (57.1)	78 (39.4)	6 (3.0)
		真空採血	139 (70.2)	30 (15.2)	28 (14.1)
	吸引	吸引瓶 (デイスボ)	120 (60.6)	3 (1.5)	48 (24.2)
		吸引瓶 (ガラス)	78 (39.4)	23 (11.6)	96 (48.5)
	酸素吸入	酸素マスク	164 (82.8)	32 (16.2)	1 (0.5)
		カニューラ	164 (82.8)	31 (15.7)	2 (1.0)
		リザーバー付き	136 (68.7)	53 (26.8)	8 (4.0)
		酸素テント	10 (5.1)	37 (18.7)	150 (75.8)
	包帯法	ベンチュリーマスク	40 (20.2)	71 (35.9)	85 (42.9)
巻軸未伸縮包帯		39 (19.7)	70 (35.4)	89 (45.0)	
伸縮包帯		110 (55.6)	81 (40.9)	7 (3.5)	
三角巾		60 (30.3)	110 (55.6)	28 (14.1)	
腹帯		73 (36.9)	102 (51.5)	23 (11.6)	
チューブ包帯	24 (12.1)	64 (32.3)	110 (55.6)		

* 未記入は掲載省略

用」の看護用具は、防水シートが62.6%であった。「使用しない」の看護用具は、スプレッドが62.2%であった。ベッド掃除でベッドブラシが65.7%、ハンディクリーナーが64.1%であった。

移乗・体位変換

「いつも使用」の看護用具は、体位変換のビーズ枕が51.0%であった。「患者の状態により使用」の看護用具は、移乗の横シートが56.1%、スライディングボードが50.5%であった。「使用しない」の看護用具は、体位変換の羽枕が67.7%であった。

排泄の援助（排尿の援助、排便の援助、おむつ交換、一時的導尿、浣腸）

「いつも使用」の看護用具は、プラスチック製尿器が65.7%、紙おむつ（テープ）が54.6%であった。「患者の状態により使用」の看護用具は、安楽尿器が51.0%であった。「使用しない」の看護用具は、ガラス製尿器が88.9%、差し込み便器（ゴム）76.3%、布おむつが94.4%、市販の導尿セットが59.1%、一時的導尿の下肢保温袋が96.0%、浣腸（ガラス）が96.5%であった。

経管栄養

「いつも使用」の看護用具は、栄養注入パックが53.0%であった。

バイタルサインの測定（呼吸状態観察、血圧測定、体温測定）

「いつも使用」の看護用具は、パルスオキシメーターが82.3%、自動血圧計が77.3%、電子体温計が98.5%であった。「使用しない」の看護用具は、アネロイド式血圧計が52.0%、水銀体温計が97.5%、鼓膜式体温計が61.6%であった。

電法の援助（冷電法、温電法）

「いつも使用」の看護用具は、冷電法のCMC製品が49.5%、ゴム製氷枕が40.4%であった。「使用しない」の看護用具は、氷嚢が67.2%、氷頸が76.8%、プラスチック製湯たんぽが78.8%、ゴム製湯たんぽが55.6%、金属製湯たんぽが96.8%であった。

診療の補助（無菌操作、注射、採血、吸引、酸素吸入、包帯法）

「いつも使用」の看護用具は、無菌操作の個包装鑷子が90.4%、安全装置付き翼状針が75.8%、吸引瓶（ディスポ）が60.6%、酸素マスクが82.8%であった。「患者の状態により使用」の看護用具は、三角巾が55.6%、腹帯が51.5%であった。「使用しない」の看護用具は、鉗子立てが82.3%、万能壺が77.8%、カストが88.4%、注射器（ガラス）97.0%であった。

- (2) 訪問の看護用具の使用状況については表4に示した。以下、看護技術項目ごとに使用状況の概要を述べる。

清潔の援助（清拭、洗髪、足浴、口腔ケア、陰部洗浄）

「いつも使用」の看護用具は、清拭でフェイスタオルが60.9%、足浴で手袋45.7%、陰部洗浄で陰部洗浄ボトルが63.7%であった。「患者の状態により使用」の看護用具は、足浴時の手袋44.8%、口腔ケアでスポンジブラシが60.0%であった。「使用しない」の看護用具は、清拭でペーパータオルが68.6%、洗髪でケリーパッド（ゴム製）が85.7%、陰部洗浄時のピッチャーが88.6%、陰部洗浄時の差し込み便器が75.2%であった。

寝衣交換・病床整備（寝衣交換、ベッドメイキング、ベッド掃除）

「使用しない」の看護用具は、ベッド掃除でベッドブラシが82.9%、ハンディクリーナーが64.8%であった。

移乗と体位変換

「患者の状態により使用」の看護用具は、体位変換のビーズ枕が82.9%、移乗のスライディングボードが63.8%、横シートが65.7%であった。

排泄の援助（排尿の援助、排便の援助、おむつ交換、一時的導尿、浣腸）

「いつも使用」の看護用具は、ディスポ浣腸が51.0%であった。「患者の状態により使用」の看護用具は、プラスチック製尿器が73.3%、安楽尿器が59.0%、紙おむつ（平）

表4 訪問の看護用具使用状況

		n = 105人 (%)					
看護技術	看護用具	いつも使用	患者の状態により使用	使用しない			
清潔の援助	清拭	洗面器	31 (29.5)	60 (57.1)	13 (12.4)		
		ウオッシュタオル	30 (28.6)	38 (36.2)	37 (53.2)		
		ペーパータオル	3 (2.9)	30 (28.6)	72 (68.6)		
		フェイスタオル	64 (60.9)	34 (32.4)	7 (6.7)		
		バスタオル	29 (27.6)	54 (51.4)	20 (19.1)		
		石けん	28 (26.7)	62 (59.1)	14 (13.3)		
	洗髪	清拭剤	6 (5.7)	75 (71.4)	24 (22.9)		
		ケリーパッド (ゴム)	3 (2.9)	12 (11.4)	90 (85.7)		
		ケリーパッド (プラ)	17 (16.2)	23 (21.9)	65 (61.9)		
		洗髪シート	25 (23.8)	29 (27.6)	51 (48.6)		
		ドライシャンプー剤	4 (3.8)	74 (70.4)	27 (25.7)		
		耳栓	6 (5.7)	44 (41.9)	55 (52.4)		
	足浴	たらい	57 (54.3)	39 (37.1)	9 (8.6)		
		ビッチャー	6 (5.7)	11 (10.5)	88 (83.8)		
		手袋	48 (45.7)	47 (44.8)	10 (9.5)		
口腔ケア	スポンジブラシ	39 (37.1)	63 (60.0)	3 (2.9)			
	吸引付きチューブ	4 (3.8)	64 (60.9)	37 (35.2)			
	舌圧子	0 (0.0)	33 (31.4)	72 (68.6)			
	ガーグルベースン	11 (10.5)	72 (68.6)	22 (21.0)			
	吸飲み	6 (5.7)	84 (80.0)	15 (14.3)			
陰部洗浄	陰部洗浄ボトル	67 (63.8)	28 (26.7)	9 (8.6)			
	ビッチャー	3 (2.9)	8 (7.6)	93 (88.6)			
	差し込み便器	0 (0.0)	25 (23.8)	79 (75.2)			
寝衣交換・病床整備	寝衣交換	和式寝衣	4 (3.8)	78 (74.3)	21 (20.0)		
		ガウン式	2 (2.0)	67 (63.8)	34 (32.4)		
		基平	3 (2.9)	79 (75.2)	21 (20.0)		
		パジャマ	23 (21.9)	76 (72.4)	4 (3.8)		
	ベッド掃除	ベッドブラシ	0 (0.0)	16 (15.2)	87 (82.9)		
		粘着ローラ	6 (5.7)	72 (68.6)	25 (23.8)		
ハンディクリーナー	1 (1.0)	34 (32.4)	68 (64.8)				
移乗・体位変換	移乗	スライディングボード	3 (2.9)	67 (63.8)	34 (32.4)		
		横シート	20 (19.0)	69 (65.7)	15 (14.3)		
	体位変換	ピースまくら	11 (10.5)	87 (82.9)	6 (5.7)		
		クッション	26 (24.8)	77 (73.3)	1 (1.0)		
		羽枕	5 (4.8)	56 (53.3)	43 (41.0)		
排泄の援助	排尿の援助	プラスチック製尿器	19 (18.1)	77 (73.3)	8 (7.6)		
		ガラス製尿器	2 (2.0)	12 (11.4)	90 (85.7)		
		安楽尿器	4 (3.8)	62 (59.0)	38 (36.1)		
	排便の援助	差し込み便器 (ゴム)	1 (1.0)	11 (10.5)	91 (86.7)		
		差し込み便器 (洋式)	2 (2.0)	19 (18.1)	82 (78.1)		
		差し込み便器 (和式)	1 (1.0)	21 (20.0)	81 (77.0)		
		差し込み便器 (和洋)	1 (1.0)	13 (12.3)	89 (84.8)		
	おむつ交換	布おむつ	3 (2.9)	8 (7.6)	94 (89.5)		
		紙おむつ (平)	24 (22.9)	70 (66.7)	11 (10.5)		
		紙おむつ (テープ)	38 (36.1)	66 (62.8)	1 (1.0)		
		紙おむつ (パンツ)	37 (35.2)	67 (63.8)	1 (1.0)		
		一時的導尿	市販導尿セット	21 (20.0)	27 (25.7)	51 (48.6)	
下股保温袋	0 (0.0)	9 (8.6)	90 (85.7)				
洗腸	デイスボ洗腸	54 (51.4)	46 (43.8)	3 (2.9)			
	経管栄養	イリゲーター	26 (24.8)	57 (54.3)	20 (19.1)		
栄養注入パック	21 (20.0)	66 (62.8)	16 (15.2)				
バイタルサインの測定	呼吸状態観察	パルスオキシメーター	87 (81.0)	13 (12.4)	5 (4.7)		
	血圧測定	水銀血圧計	9 (8.6)	5 (4.8)	90 (85.7)		
アネロイド式		68 (64.8)	16 (15.2)	20 (19.1)			
自動血圧計		16 (24.8)	30 (28.6)	49 (46.7)			
体温測定	水銀体温計	1 (1.0)	8 (7.6)	96 (91.4)			
	電子体温計	102 (97.1)	3 (2.8)	0 (0.0)			
	鼓膜式体温計	2 (2.0)	3 (2.8)	100 (95.2)			
電法	冷電法	氷枕 (ゴム)	3 (2.9)	51 (48.5)	48 (45.7)		
		氷嚢	2 (2.0)	27 (25.7)	73 (69.5)		
		氷類	2 (2.0)	28 (26.7)	72 (68.6)		
		CMC 製品	20 (19.0)	45 (42.8)	34 (32.4)		
		プラスチック製湯たんぽ	4 (3.8)	61 (58.1)	34 (32.4)		
	温電法	ゴム製湯たんぽ	1 (1.0)	43 (41.0)	55 (52.4)		
		金属製湯たんぽ	1 (1.0)	27 (25.1)	71 (67.0)		
		CMC 製品	6 (5.7)	46 (43.8)	44 (41.9)		
		診療の補助	無菌操作	鉗子立て	0 (0.0)	10 (9.5)	86 (81.9)
				個包装鑷子	28 (26.7)	37 (35.2)	31 (29.5)
万能壺	5 (4.8)			14 (13.3)	77 (68.6)		
滅菌包布	6 (5.7)			18 (17.1)	72 (68.6)		
カスト	3 (2.9)			13 (12.4)	80 (76.2)		
注射	注射器 (ガラス)	3 (2.9)	1 (1.0)	98 (93.3)			
	滅菌トレイ	1 (1.0)	8 (7.6)	93 (88.6)			
	安全装置付きの翼状針	33 (31.4)	43 (41.0)	26 (24.7)			
採血	注射器 (採血)	42 (40.0)	40 (38.1)	16 (15.2)			
	真空採血	25 (23.8)	37 (35.2)	36 (34.3)			
吸引	吸引瓶 (デイスボ)	15 (14.2)	35 (33.3)	51 (48.6)			
	吸引瓶 (ガラス)	27 (25.7)	41 (39.5)	33 (31.4)			
酸素吸入	酸素マスク	22 (20.9)	66 (62.8)	15 (14.3)			
	カニューレ	44 (41.9)	57 (54.3)	2 (2.0)			
	リザーバー付き	5 (4.7)	47 (44.8)	51 (48.6)			
	酸素テント	1 (1.0)	4 (3.8)	98 (93.3)			
	ベンチュリーマスク	3 (2.9)	22 (20.9)	76 (72.3)			
包帯法	巻軸末伸縮包帯	2 (2.0)	51 (48.5)	48 (45.7)			
	伸縮包帯	19 (18.1)	74 (70.5)	8 (7.6)			
	三角巾	4 (3.8)	61 (58.1)	36 (34.3)			
	腹帯	2 (2.0)	65 (61.9)	34 (32.4)			
	チューブ包帯	2 (2.0)	34 (32.3)	65 (61.9)			

* 未記入は掲載省略

表5 看護用具の【使用】割合と施設間の比較

	看護技術	看護用具	病院 n = 198人 (%)	訪問 n = 105人 (%)	2値(df1)	p値	
清潔の援助	清拭	清拭車	118 (59.6)				
		洗面器	130 (65.7)	*91 (86.7)	16.576	< 0.0001	
		ウオッシュタオル	135 (68.2)	68 (64.8)	0.363	0.5469	
		ペーパータオル	*112 (56.6)	33 (31.4)	18.108	< 0.0001	
		フェイスタオル	177 (89.4)	98 (93.3)	0.843	0.3584	
		バスタオル	161 (81.3)	83 (79.1)	0.024	0.878	
		石けん	130 (65.7)	*90 (85.7)	14.612	0.0001	
	洗髪	清拭剤	127 (64.1)	*81 (77.1)	5.389	0.0202	
		洗髪車	121 (61.1)				
		ケリーパッド (ゴム)	*67 (33.8)	15 (14.3)	13.289	0.0003	
		ケリーパッド (プラ)	61 (30.8)	4 (3.8)	1.640	0.2035	
		洗髪シート	93 (47.0)	54 (51.4)	0.546	0.4599	
		ドライシャンプー剤	158 (79.8)	78 (74.3)	1.211	0.2712	
	足浴	耳栓	90 (45.5)	50 (47.6)	0.129	0.7191	
		たらい	173 (87.4)	96 (91.4)	0.762	0.3827	
口腔ケア	ビッチャー	*153 (77.3)	17 (16.2)	103.951	< 0.0001		
	手袋	*196 (99.0)	95 (90.5)	10.933	0.0009		
	スポンジブラシ	193 (97.5)	102 (97.1)	0.042	0.8376		
	吸引付きチューブ	115 (58.1)	68 (64.8)	1.280	0.2578		
陰部洗浄	舌圧子	*126 (63.6)	33 (31.4)	28.540	< 0.0001		
	ガーグルベース	*197 (99.5)	83 (79.1)	41.471	< 0.0001		
	吸飲み	*190 (96.0)	90 (85.7)	8.859	0.0029		
	陰部洗浄ボトル	*195 (98.5)	95 (90.5)	7.332	0.0068		
寝衣交換・病床整備	寝衣交換	ビッチャー	*51 (25.8)	11 (10.5)	9.631	0.0019	
		差し込み便器	*144 (72.7)	25 (23.8)	65.588	< 0.0001	
		和式寝衣	143 (72.2)	82 (78.1)	1.960	0.1615	
	ベッドメイキング	ガウン式	146 (73.7)	69 (65.7)	1.511	0.2189	
		基平	164 (82.8)	82 (78.1)	0.469	0.4932	
		パジャマ	137 (69.2)	*99 (94.3)	27.441	< 0.0001	
		フラットシート	174 (87.9)				
		上シート	105 (53.0)				
		防水シート	177 (89.4)				
		横シート	109 (55.1)				
	ベッド掃除	毛布	168 (84.9)				
		スプレッド	73 (36.9)				
	移乗・体位交換	移乗	ベッドブラシ	*68 (34.3)	16 (15.2)	11.915	0.0006
			粘着ローラ	167 (84.3)	78 (74.3)	3.321	0.0684
		体位変換	ハンディクリーナー	70 (35.4)	35 (33.3)	0.072	0.7889
スライディングボード			*177 (89.4)	70 (66.7)	22.330	< 0.0001	
排泄の援助	排尿の援助	横シート	168 (84.9)	89 (84.8)	0.029	0.8659	
		ビーズまくら	188 (95.0)	98 (93.3)	0.000	0.9957	
	排便の援助	クッション	190 (96.0)	103 (98.1)	1.297	0.2547	
		羽枕	64 (32.3)	*61 (58.1)	19.487	< 0.0001	
		プラスチック尿器	*195 (98.5)	96 (91.4)	5.758	0.0164	
		ガラス製尿器	22 (11.1)	14 (13.3)	0.359	0.54932	
	おむつ交換	安楽尿器	116 (58.6)	66 (62.9)	0.597	0.4398	
		差し込み便器 (ゴム)	*47 (23.7)	12 (11.4)	6.281	0.0122	
		差し込み便器 (洋式)	*82 (41.4)	21 (20.0)	13.307	0.0003	
		差し込み便器 (和式)	*101 (51.0)	22 (21.0)	24.650	< 0.0001	
差し込み便器 (和洋)		*73 (36.9)	14 (13.3)	17.864	< 0.0001		
布おむつ		11 (5.6)	11 (10.5)	2.467	0.1162		
一時的導尿	紙おむつ (平)	164 (82.8)	94 (89.5)	2.432	0.1188		
	紙おむつ (テープ)	198 (100)	104 (99.1)	0.104	0.7467		
	紙おむつ (パンツ)	198 (100)	104 (99.1)	0.104	0.7467		
	市販導尿セット	81 (40.9)	48 (45.7)	1.542	0.2144		
浣腸	下肢保温袋	8 (4.0)	9 (8.6)	2.254	0.1333		
	浣腸 (ガラス)	7 (3.5)					
経管栄養	浣腸 (デスポーザブル)		100 (95.2)				
	経管栄養	イリゲーター	128 (64.7)	*83 (79.1)	8.209	0.0042	
バイタルサインの測定	呼吸状態観察	栄養注入バック	163 (82.3)	87 (82.9)	0.221	0.638	
		パルスオキシメーター	190 (96.0)	100 (95.2)	0.000	0.9976	
	血圧測定	水銀血圧計	*108 (54.6)	14 (13.3)	47.799	< 0.0001	
		アナロイド式	94 (47.5)	*84 (80.0)	30.773	< 0.0001	
		自動血圧計	*191 (96.5)	56 (53.3)	81.884	< 0.0001	
	体温測定	水銀体温計	5 (2.5)	*9 (5.6)	4.402	0.0359	
		電子体温計	198 (100)	105 (100.0)			
電法	冷電法	鼓膜式体温計	*76 (38.4)	5 (4.8)	37.903	< 0.0001	
		氷枕 (ゴム)	*138 (69.7)	54 (51.4)	8.203	0.0042	
		氷嚢	65 (32.8)	29 (27.6)	0.605	0.4367	
		氷類	46 (23.2)	30 (28.6)	1.359	0.2437	
		CMC 製品	137 (69.2)	65 (61.9)	1.805	0.1791	
	温電法	プラスチック製湯たんぽ	42 (21.2)	*65 (61.9)	56.566	< 0.0001	
		ゴム製湯たんぽ	88 (44.4)	44 (41.9)	0.000	1.0000	
		金属製湯たんぽ	6 (3.0)	*28 (26.7)	39.064	< 0.0001	
		CMC 製品	81 (40.9)	52 (49.5)	3.272	0.0705	
		無菌操作	個包装綿子	35 (17.7)	10 (9.5)	2.629	0.1049
診療の補助	注射	個包装綿子	*191 (96.5)	65 (61.9)	44.983	< 0.0001	
		万能壺	43 (21.7)	19 (18.1)	0.160	0.6888	
		滅菌包布	76 (38.4)	24 (22.9)	5.160	0.0231	
	採血	カスト	22 (11.1)	16 (15.2)	1.729	0.1885	
		注射器 (ガラス)	5 (2.5)	4 (3.8)	0.094	0.759	
	吸引	滅菌トレイ	*70 (35.4)	9 (8.6)	23.539	< 0.0001	
		安全装置付きの翼状針	*176 (88.9)	76 (72.4)	11.157	0.0008	
		注射器 (採血)	*191 (96.5)	82 (78.1)	14.857	0.0001	
	酸素吸入	真空採血	*169 (85.4)	62 (59.0)	19.540	< 0.0001	
		吸引瓶 (デイスボ)	*149 (75.3)	50 (47.6)	20.548	< 0.0001	
吸引瓶 (ガラス)		101 (51.0)	*68 (64.8)	7.013	0.0081		
酸素マスク		*196 (99.0)	88 (83.8)	23.755	< 0.0001		
包帯法	カニューレ	195 (98.5)	101 (96.2)	0.018	0.8932		
	リザーバー付き	*189 (95.5)	52 (49.5)	85.595	< 0.0001		
	酸素デント	*47 (23.7)	5 (4.8)	15.746	< 0.0001		
	ベンチュリーマスク	*111 (56.1)	25 (23.8)	27.290	< 0.0001		
	巻軸未伸縮包帯	109 (55.1)	53 (50.5)	0.179	0.6725		
チューブ包帯	伸縮包帯	191 (96.5)	93 (88.6)	1.858	0.1725		
	三角巾	*170 (85.9)	65 (61.9)	18.381	< 0.0001		
	腹帯	*175 (88.4)	67 (63.8)	21.070	< 0.0001		
	チューブ包帯	88 (44.4)	36 (34.3)	2.134	0.1440		

* 割合が高い

が66.7%，紙おむつ（テープ）が62.8%であった。「使用しない」の看護用具は、ガラス製尿器が85.7%，差し込み便器（ゴム）が86.7%，布おむつが89.5%，市販の導尿セットが48.6%，一時的導尿の下肢保温袋が85.7%であった。

経管栄養

「いつも使用」の看護用具は、栄養注入パックが20.0%，「患者の状態により使用」の看護用具は、イリゲーターが54.3%であった。

バイタルサインの測定（呼吸状態観察，血圧測定，体温測定）

「いつも使用」の看護用具は、パルスオキシメーターが81.0%，アネロイド式血圧計が64.8%，電子体温計が97.1%であった。「使用しない」の看護用具は、水銀血圧計が85.7%，水銀体温計が91.4%，鼓膜式体温計が95.2%であった。

電法の援助（冷電法，温電法）

「患者の状態により使用」の看護用具は、ゴム製氷枕が48.5%，CMC製品が42.8%，プラスチック製湯たんぽが58.1%，ゴム製湯たんぽが41.0%であった。「使用しない」の看護用具は、氷嚢が69.5%，氷頸68.6%，金属製湯たんぽが67.0%であった。

診療の補助（無菌操作，注射，採血，吸引，酸素吸入，包帯法）

「使用しない」の看護用具は、鉗子立てが81.9%，注射器（ガラス）が93.3%，吸引瓶（ディスポ）が48.6%であった。

(3) 病院，訪問で使用割合が異なっている看護用具（表5）

「いつも使用」「患者の状態により使用」を【使用】と再分類し，病院と訪問で【使用】割合を比較した。病院，訪問で共通した看護用具で【使用】割合が異なっている物は44項目であった。病院で訪問より【使用】割合が高かった看護用具は33項目で，清拭のペーパータオルが56.6%，陰部洗浄の差し込み便器が72.7%，排泄の差し込み便器（和式）が51.0%，水銀血圧計が54.6%，自動血圧計が96.5%，吸引瓶（ディスポ）が75.3%であった（ $p < 0.05$ ）。

表6 基礎教育とギャップを感じる看護用具の記述内容

看護技術	看護用具	件 (%)
病院 n = 197		
清潔の援助 96件 (48.7%)	ケリーパッド	18 (9.1)
	ピッチャー	14 (7.1)
	清拭物品	14 (7.1)
	清拭クロス	14 (7.1)
	洗髪車	9 (4.6)
	洗髪物品	8 (4.1)
	湯温計	5 (2.5)
	石鹸	4 (2.0)
	足浴物品	3 (1.5)
	清拭車	2 (1.0)
	陰部洗浄物品	2 (1.0)
	バケツ	1 (0.5)
	ベース	1 (0.5)
	ストレッチャーバス	1 (0.5)
バイタルサイン測定 34件 (17.3%)	血圧計	31 (15.7)
	パルスオキシメーター	2 (1.0)
	水銀体温計	1 (0.5)
排泄の援助 8件 (4.1%)	洗腸	2 (1.0)
	おむつ	2 (1.0)
	差し込み便器	1 (0.5)
	高圧洗腸	1 (0.5)
	導尿物品	1 (0.5)
	バルンカテーテル	1 (0.5)
	その他	1 (0.5)
寝具や環境の援助 16件 (8.1%)	シーツ類	14 (7.1)
	環境整備物品	2 (1.0)
電法 13件 (6.6%)	氷枕	4 (2.0)
	氷嚢	4 (2.0)
	氷頸	1 (0.5)
	温電法物品	2 (1.0)
	冷電法物品	1 (0.5)
	湯たんぽ	1 (0.5)
	その他	1 (0.5)
移乗・安楽 5件 (2.5%)	リフト	1 (0.5)
	スライダー	1 (0.5)
	スライディングボード	1 (0.5)
	クッション	1 (0.5)
	安楽枕	1 (0.5)
無菌操作 11件 (5.6%)	カスト	3 (1.5)
	鉗子立て	3 (1.5)
	滅菌物	2 (1.0)
	万能壺	1 (0.5)
	鑷子	1 (0.5)
	無菌操作物品	1 (0.5)
	その他	1 (0.5)
注射 9件 (4.6%)	注射器	1 (0.5)
	ガラス注射	1 (0.5)
	注射針	1 (0.5)
	駆血帯	1 (0.5)
	点滴スタンド	1 (0.5)
	輸液ポンプ	1 (0.5)
	シリンジポンプ	1 (0.5)
	点滴ルート	1 (0.5)
	ペン型インスリン器	1 (0.5)
	その他	1 (0.5)
吸引・吸入 2件 (1.0%)	吸引物品	1 (0.5)
	酸素 TENT	1 (0.5)
	その他	1 (0.5)
その他 3件 (1.5%)	包帯	1 (0.5)
	採血物品	1 (0.5)
その他	1 (0.5)	
訪問 n = 52		
清潔の援助 33件 (63.5%)	洗髪用品	9 (17.3)
	陰部洗浄用品	8 (15.4)
	ケリーパッド	7 (13.5)
	足浴用品	4 (7.7)
	清拭物品	3 (5.8)
	ピッチャー	2 (3.8)
バイタルサイン測定	血圧計	5 (9.6)
	差し込み便器	1 (1.9)
排泄の援助	アイスノン	1 (1.9)
	ボード	1 (1.9)
電法	滅菌物	3 (5.8)
	創処置物品	2 (3.8)
	衛生材料	1 (1.9)
	鉗子立て	1 (1.9)
	鑷子	1 (1.9)
注射	点滴物品	2 (3.8)
	膀胱洗浄物品	1 (1.9)
その他	1 (1.9)	

訪問で病院より【使用】割合が高かった看護用具は11項目で、清拭時の洗面器が86.7%、体位変換時の羽枕が58.1%、経管栄養時のイリゲーターが79.1%、アネロイド式血圧計が80.0%、プラスチック製湯たんぽが61.9%であった ($p < 0.05$)。

3) 看護用具と基礎教育とのギャップについて

使用している看護用具と基礎教育にギャップを感じる者は、病院で107人 (54.0%)、訪問で47人 (44.8%) であった。対象の属性との関係を見ると、病院では看護基礎教育の臨床指導経験無しの者にギャップを感じる者の割合が高かった ($p < 0.05$)。他に関係は見られなかった。

ギャップを感じる看護用具については病院で103人、訪問で41人から回答が得られ、看護用具の件数は病院で197件、訪問で52件であった (表6)。病院ではケリーパッド、ピッチャー、清拭物品等の清潔の援助に関する用具が48.7%で、次いで血圧計等のバイタルサインの測定に関する用具が17.3%であった。訪問では洗髪用品、陰部洗浄用品、ケリーパッド等の清潔の援助に関する用具が63.5%であった。

病院で基礎教育とのギャップを感じ、新人教育に問題を感じている者は107人中46人 (46.3%) であり、41件の記述内容が得られた。記述内容を意味内容の類似性でまとめると、【基礎教育や病院の看護用具の違い】【指導に時間がかかる】【応用ができない】など6カテゴリーに分類できた (表7)。

考 察

臨床に即しかつ看護基礎技術の原理原則を教授するのに適した看護用具を検討する基礎資料を得る目的で、病院と訪問において看護基礎教育で使用している看護用具の使用状況を調査した。その結果、基礎看護技術教育のテキストに掲載され教育で使用されていることが多いと予測される看護用具でも、臨床での使用が顕著に少ない看護用具やディスプレイ製品に置き換わって使用されている現状が明らかになった。以下に看護技術ごとに看護用具の使用状況と今後の基礎看護技術教育において得られた示唆について考察する。

1. 清潔の援助に使用する看護用具

清拭ではフェイスタオルの【使用】割合が8割以上で、清拭に用いる標準的な物品として使用されていると考える。ウオッシュタオルの【使用】割合は6割で、尾崎らの調査⁸⁾とは大きく変化していなかった。本調査で項目に加えたペーパータオルは病院と訪問で【使用】割合に違いが見られた。病院では感染予防や簡便性やコスト削減の観点から取り入れられていると推測する。在宅では自宅にある物を利用し経済的負担を極力避ける看護用具を選択していることが推察される。清拭では皮膚の割線や筋肉の走行にそって清拭することが求められる。また気分爽快感や末梢循環の改善を図ることも求められる。皮膚や粘膜の汚れに応じて使用物品を選択するが、タオルやペーパータオルのいずれを使用してもこれらの原理原則が押さえられるよう教授する必要がある。

洗髪ではケリーパッドを「使用しない」者が6~8割で尾崎らの調査⁸⁾と比較しても更に使用割合は減少

表7 新人教育において看護技術教育上で問題と感ずる内容

カテゴリー	新人教育において看護技術教育上で問題と感ずる記述内容例	記述件数	41件
基礎教育や病院における看護用具の違い	・使用方法がわからない ・学校で習った物が無く使用に戸惑う ・病院によって使用物品が違う など	15	
指導に時間がかかる	・一から指導しなければならないこと ・用具の説明が必要なため指導に時間を要する ・見たことがないので不安などの発言があり教育に時間がかかる など	8	
応用ができない	・実践応用できない ・学生時代の事が実際には何も生かせない ・基本と応用が繋がっていない など	10	
看護技術の不確かさ	・輸液投与量の計算ができない ・清潔な取り扱いができない ・パルスオキシメーターで脈拍をはかり自分で判断できない など	5	
教育と臨床の違い	・教育と実際の場が違う ・演習では経験できないことがある	2	
技術教育の用具不足	・学校程ではないがもっと用具がほしい	1	

していた。ケリーパッドの使用割合は低くなっていたが、ケリーパッドを用いての学習は、臥床患者の洗髪において患者の安楽な体位や洗髪の手順を学習するうえでは有用であると考えられる。

足浴では手袋の【使用】割合は9割以上であった。WHO手指衛生ガイドライン¹⁴⁾では健康な皮膚はスタンダードプリコーションの対象とはなっていないが、足浴に関わらず清潔の援助の際には手袋を装着し、感染予防に留意していることが推測された。ガイドラインを踏まえながら教授について検討する看護用具と考える。

口腔ケアはスポンジブラシの【使用】割合が9割であった。スポンジブラシは市販もされており身近な介護用品となっていることがうかがえた。また、陰部洗浄は病院・訪問共に陰部洗浄ボトルの【使用】割合が9割以上であった。尾崎らの調査⁹⁾より更に使用割合が上昇していた。陰部洗浄でピッチャーを「使用しない」者は7～8割で、基礎教育とのギャップを感じる看護用具の一つにもピッチャーが挙げられていた。ピッチャーは湯を入れた場合の不安定さや重さにより取り扱いが難しい等もあり、より簡便で操作が容易な物品として陰部洗浄ボトルは使用されていることがうかがえた。口腔ケアのスポンジブラシや陰部洗浄ボトルは、本学でも教材として取り上げているが、物品の使用方法や使用上の注意なども含めて教授していくことが必要であると考えられる。

2. 寝具と病床整備の援助に使用する看護用具

ベッドメイキングではスプレッドを「使用しない」とした者は6割であった。尾崎らの調査⁹⁾より更に使用割合が低下していた。病床においてスプレッドを使用しているところは少なく、従来基礎看護教育で学んでいるクローズドベッドの作成で使用している物と大きく違っている物品であることが分かった。病院では基準寝具の業者等がシーツ交換を行っていることも多く、掛け物も殆ど包布を使用するようになっている。基礎教育ではベッドメイキングで使用するシーツやスプレッドは大きな布を効率よく、清潔に取り扱うことなども含めて学習するための教材である。しかし、掛け物では臨床で多く用いられている包布の取り扱いなども加えて教授していくことが求められると考える。

寝床の整備で用いられる用具についてはベッドブラシやハンディクリーナーに代わり粘着ローラーが主に使用されていた。ベッドブラシは細菌汚染が懸念され¹⁵⁾、ハンディクリーナーは排気汚染や騒音がある等により使用されなくなっていると推測される。感染予防のガイドラインに添い看護用具を選択し教授する必

要があると考えられる。

3. 移乗や体位変換の援助で使用する看護用具

移乗にはスライディングボードや横シートが多く活用されていた。腰痛予防のためノーリフトの推奨¹⁶⁾が広がる中、移動に用いる用具も変化してきている。本学でもスライディングボードの普及状況を踏まえて教材として取り上げているが、患者・看護師双方の安全・安楽を確保し適切な使用ができるよう今後も教授していく必要があると考える。

体位変換における枕の使用状況は病院で羽枕は「使用しない」が6割であった。近年では体位変換や安楽な体位の保持に用いる枕の素材は洗浄や乾燥などの取り扱いの容易なビーズやウレタン、スポンジなどが用いられるようになってきた。枕を用いる部位やあて方の学習には羽枕以外にも、これらの新しい素材の利点・欠点などを含めて教授することが必要であると考えられる。

4. 排泄の援助で使用する看護用具

排泄の援助ではガラス製品、ゴム製品の利用が「使用しない」とした割合が7～8割、差し込み便器は病院では「使用しない」が4～7割で尾崎らの調査⁹⁾より更に使用割合が減少していた。しかし、患者の状態によっては差し込み便器や尿器を使用することもある。便器の挿入や尿器のあて方は、寝具や寝衣を便や尿で汚染させない方法、また看護師や患者のボディメカニクスの学習上においても不可欠であると考えられる。一方、紙おむつの使用割合は高かった。種類も多種多様に開発され選択の幅が広がっていると推測される。選択や使用方法の教授も必要であると考えられる。

浣腸ではガラス製品は殆ど使用されておらず、ディスプレイの浣腸が行われていた。また一時的導尿では市販の導尿セットを「使用しない」が病院で5割、訪問で4割であった。病院や訪問で実施時に必要物品を揃えて実施していることがうかがえた。浣腸や一時的導尿では原理や実施方法の原則を押さえながらも、ディスプレイの浣腸液の使用方法や注意事項、一時的導尿では物品が異なっても患者の安全を確保し、無菌操作方法の原則が学習できるよう教授することが必要であると考えられる。

5. 経管栄養の援助で使用する看護用具

市販の栄養注入パックは【使用】割合が8割以上で尾崎らの調査⁹⁾より更に使用割合が増加していた。栄養剤の種類によるためイリゲーターの【使用】割合も6割～7割みられた。今後は製品の開発によりイリゲーターの使用は減少すると予想されるが、現時点では衛

生管理などの取り扱い上の注意を含めて用具を紹介する必要はあると考える。

6. バイタルサインの測定で使用する看護用具

パルスオキシメーターの使用は「いつも使用」が8割以上で尾崎らの調査⁶⁾とほぼ同じであり、身近な測定器具になっていることが分かった。バイタルサインの測定において教授すべき教材と考える。

血圧測定において病院と訪問で使用機器の使用割合に違いが見られた。病院では自動血圧計を使用する割合が高く、訪問ではアネロイド式血圧計を使用する割合が高かった。訪問では持ち運びの利便性からアネロイド式を使用していると推測する。病院では簡便性から自動血圧計を使用していると推測される。看護基礎教育では血圧測定においてコロトコフ音聴取の技術の原理を教授する目的から水銀血圧計を使用していることが多い⁷⁾。しかし環境汚染物質である水銀製品の製造や輸出入の禁止が2020年から開始される¹⁷⁾。直ちに使用できなくなる訳ではないが、尾崎らの調査⁸⁾と比較しても使用割合は減少していた。臨床現場では更に使用割合が減少することが予想される。このことから水銀血圧計以外の血圧計で、正確に測定できる技術を教授する必要があると考える。

体温測定は全てが電子体温計を使用していた。一般家庭にも広く普及しており、電子体温計で教授すべきと考える。一方鼓膜式体温計は普及していないことが分かった。1秒程で測定できるが、測定手技による誤差も懸念されるためと考える。しかし、体温の測定機器は日々進歩し測定時間の更なる短縮や、非接触式など開発されていることから、今後の利用状況を把握しながら、教材としての検討を重ねる必要がある。

7. 電法の援助で使用する看護用具

冷電法では氷枕は【使用】割合は5～6割で、氷嚢や氷頭は2～3割であった。尾崎らの調査⁹⁾より使用割合が更に減少していた。CMC製品の普及により氷を用いた冷電法方法が減少していると推測される。また、病院は感染予防の観点から製氷機や氷枕を使用しないことも予測される⁸⁾。電法の技術の学習では水や空気の熱伝導の違いなどの原理や効果、危険性などを教授する。CMC製品は便利ではあるがこれらの知識を教授するには十分とはいえないことから、従来の氷枕を用いて教授する必要があると考える。

温電法では湯たんぽを「使用しない」が病院では5割以上であった。温湯による熱傷の危険を避けるためと、電気毛布等を使用しているためと推測される。しかし、訪問ではプラスチック製湯たんぽの【使用】割

合は6割で病院と違いが見られた。プラスチック製湯たんぽは防災製品や省エネ製品としても一般に市販されており、在宅でも使用されていると考えられることから、今後はプラスチックなど材質の違う湯たんぽの使用方法や安全な取り扱いについても教授する必要があると考える。

8. 診療の補助で使用する看護用具

無菌操作、注射、吸引でガラス製品は殆ど使用されておらず、感染予防に重点を置いた看護用品が使用されていた。注射器や感染予防製品はディスプレイ製品で教授することで臨床での戸惑いも少なく良いと考える。三角巾や腹帯は【使用】割合が6～8割であった。救急場面では依然として使用頻度が高いことから包帯法の基本と共に使用方法について教授する必要があると考える。

9. 基礎教育に感じるギャップと新人教育に感じる問題内容

基礎教育とギャップを感じる者は病院で臨床指導者としての教育経験が無い者に多かった。これは、基礎教育において学生がどのような内容で看護技術を教授されているのかを知らないため、ギャップを感じるのだと推察する。新人教育では「物品が分からない」「教育に時間が掛かる」「応用ができない」等の問題が挙げられた。ギャップを少しでも解消するためには、基礎教育機関は臨床の状況を把握するよう努め、臨床は基礎教育機関との情報交換を図るよう努める必要があると考える。

結論と今後の課題

病院と訪問において基礎看護技術教育の教材で用いる看護用具の使用状況を調査し以下の結論を得た。

1. 病院、訪問共に「いつも使用」「患者の状態により使用」を合わせ使用割合が9割以上の看護用品は電子体温計、紙おむつ、足浴時の手袋、陰部洗浄ボトル、プラスチック尿器であった。
2. 病院、訪問共に使用割合が低い看護用品は水銀体温計、布おむつ、ガラス製品、ゴム製品、カスト類、陰部洗浄時のピッチャーであった。
3. 病院と訪問では44の看護用具で使用割合に違いが見られた。病院は衛生管理など取り扱いが簡便である物が使用され、訪問では個別の家庭状況に応じて看護用具が選択されていることが推察された。
4. 基礎教育とギャップを感じる看護用具は清潔の

援助用品が最も多く、次いで血圧計であった。

5. 基礎教育とギャップを感じる者は病院では臨床指導者としての教育経験が無い者が多く、それらを解消するためには教育機関と臨床で情報交換をする必要性が示唆された。
6. 新人教育においては「物品が分からない」「指導に時間が掛かる」「応用ができない」等の問題が挙げられた。

今後は看護基礎教育機関で教授している看護用具を調査し、臨床との相違やその理由を明確にし、より良い教材を検討することが課題である。

引用文献

- 1) 厚生労働省：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書，2007
- 2) 山口曜子他：新人看護師の離職に繋がる要因とそれを防ぐ要因，日本看護医療学会雑誌16(1)：51-58，2014
- 3) 堀田暢子他：入職半年後の新卒看護師が感じる看護基礎教育と看護実践現場とのギャップ，北日本看護学会誌15(1)：13-21，2012
- 4) 平塚陽子他：新卒看護師が感じる看護基礎教育と看護実践現場とのギャップ，北日本看護学会誌11(2)：13-21，2009
- 5) 山口瑞穂子他：基礎看護技術教育の教育内容の検討(1) 臨床における看護用具に関する実態調査，日本看護学教育学会誌7(3)：37-45，1997
- 6) 舟島なをみ監：看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて。医学書院，東京，2013，pp130
- 7) 村上みち子他：基礎看護技術の教育内容の検討(2) 教材としての看護用具に焦点を当てて，順天堂医療短期大学紀要12：101-107，2001
- 8) 尾崎道江他：臨床における看護用具の使用状況に関する実態調査 教材として用いる看護用具に焦点を当てて，茨城キリスト教大学看護学部紀要1：45-54，2009
- 9) 大津廣子他：学内実習における教員の基礎看護技術の実施状況と指導方法，愛知県立大学看護学部紀要19：31-40，2013
- 10) 阿曾洋子他：基礎看護技術第7版。医学書院，東京，2011
- 11) 深井喜代子他：新体系看護学全書 基礎看護学 基礎看護技術。メジカルフレンド社，東京，2014
- 12) 深井喜代子他：新体系看護学全書 基礎看護学 基礎看護技術。メジカルフレンド社，東京，2014
- 13) 三上れつ他：演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして第3版。ヌーヴェルヒロカワ，東京，2012
- 14) WHO 医療における手指衛生ガイドライン要約版2009 (オンライン)
<http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/70126/12/WHO_IER_PSP_2009.07_jpn.pdf> (参照2016-4-14)
- 15) 鈴木淳子他：ベッドブラシの細菌学的汚染に関する検討 ベッドブラシの使用頻度による汚染とベッドブラシの消毒方法，順天堂医療短期大学紀要7：9-16，1996
- 16) 中央労働災害防止協会健康快適推進部編：医療保健事業の労働災害防止(看護従事者の腰痛予防対策)：厚生労働省，東京，2014
- 17) 経済産業省：化学物質政策小委員会資料2-4，水銀に関する水俣条約について (オンライン)
<http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/seizou/kagaku/pdf/001_02_04.pdf> (参照2016-4-14)

Trends in the usage of nursing equipment in
general hospitals and visiting nursing stations
(Focus on nursing equipment used as teaching
materials for basic nursing skills)

Makiko HASEBE* Makiko SASAKI*

*Course of Nursing, Graduate school of Health Sciences, Akita University

The diversification of the locations that provide medical care and perform necessary nursing skills has led to changes in nursing equipment. We conducted a study in order to create a database on the nursing equipment that is used in the clinical setting, which is suitable for teaching the principles of basic nursing. A questionnaire survey targeting nursing professionals involved in the selection of nursing equipment in general hospitals with 200 beds or more and visiting nursing stations was conducted throughout the country. The subjects included 198 nursing professionals from hospitals (effective response rate: 31.8%) and 105 nursing professionals from visiting stations (effective response rate: 29.3%). An analysis of the trends in the usage of nursing equipment among the 96 items extracted from previous studies and textbooks revealed that the usage rate of nursing equipment containing glass, rubber and mercury was low. A difference was found in the usage rates of hospitals and visiting stations and it was considered that the nursing location should be taken into consideration when selecting teaching materials.